【表題】

シニア層における人との交流に ICT 利用が与える影響

【発表者】

水野一成、近藤勢津子、吉良文夫（NTT ドコモ モバイル社会研究所）

【目的】 地域在住のシニア層（60 代，70 代）内で、人との交流が活発な人は、ICT 利活用による人間関係への影響がどの程度実感しているかを定量調査にて明らかにする

【対象と方法】 関東 1 都 6 県に在住、60・70 代を性年齢及び居住地の都市規模に応じて割付、訪問留置法を用いて実査（2022 年 1 月）。分析サンプル数は 709。

- ① 人との交流の多寡は、家族・親族及び友人・知人との交流頻度を基に得点化。中央値にて対面・非対面に分けてそれぞれ積極・消極の 2 つの層に分類。
- ② ICT 利用が与える影響は、ICT 利活用によって変化した人間関係に関する設問（関係が深まった、新たな友達ができる、交友範囲が広がった、旧友が復活した等）を基に、因子分析を実施し、その因子の得点の高低で測定
- ③ 対面及び非対面交流の積極・消極層別に各因子の得点の平均値を算出して比較

【倫理的配慮】 当調査は、調査員が被験者に対し、調査内容の説明等を実施し、承諾を得た方のみ回答を依頼

【結果】 ICT 利活用による人間関係因子は、2 因子（人間関係の）「深化（既存の関係が深まった）」「拡大（交友関係が広がる・新たな友達ができる）」が抽出され、対面・非対面交流ともに、積極層は消極層と比較し、深化・拡大とも有意に高い得点である。また拡大より深化の方がより強い差である。

【考察】 ICT 利活用による人間関係因子は、2 因子（人間関係の）「深化（既存の関係が密）」「拡大（交友関係が広がる・新たな友達ができる）」が析出された。対面・非対面交流ともに、積極層は消極層と比較し、これら 2 因子の得点が有意に高い。また拡大因子よりも深化因子の方がより強い差である。

【考察】 シニア層の人との交流の中で、ICT の活用が進み、その効用として関係性をより深める、広げる結果が見られた。対面交流にもその結果を確認できたことは、ICT 利活用は単なる連絡手段にとどまらず、人との交流をより深化・拡大させている可能性が示された。